

きょうのインタビュー

歩くことは賢者のスポーツだそうだ。いわれてみると、森を歩きながら考えたという哲学者の話も聞いたこともある。加えていまや万歩運動花ざかり。ブームにのって歩数計「万歩メーター」を登場させたヤマサ時計計器KKの加藤二郎社長をたずねてみた。

万歩メーターのヤマサ時計計器社長 加藤二郎氏

「いままであまりお目にかからなかったこの機械、作りだされた動機は。」
「いや、ヨーロッパなどでは以前から盛んに使われていました。私のところも七年前、あるバイヤーからこんなものはできないかと思本を見せられたんです。商談は結局流れましたが、このときの研究があとになって生かされたんです。もっとも外国では距離計的要素が強く、使用目的もちょっと違うようです。」
「製造に踏み切った動機は。」
「その後日本でも歩け歩け運動が急に盛んになり、こうした計器の必要性が出てきたんですね。万

歩クラブの大矢理事長あたりから、日本じゃできないのかといった提案もあり、かつての研究が目のをみることになりました。」
「ソロバンは第一です。ただスポーツ的な意味のほかに、私は歩くこと自体に意義を感じていました。歩行は全身機能の60程を使うそうです。歩かなきゃ人間はサビるんです。歩くということこそ忘れがちな人間が、この素朴な本能を取り返すことによって、繁雑な近代生活の中で自分をしっかり

「老若男女、あらゆる人に利用していただくにはまだまだちょっと高いです。国内では流通機構の問題もあるし、全体的には生産量の問題もある。四十一年度は輸出と引き合いがきています。とくにヨーロッパ、アメリカが多いのは、こうした先進国では歩くことの意義が認識され、意識的に歩かれていますか。」
「国内向けを半々にしたいと思ってありますが、大量生産できればコストも下がりますし千円台にはしたいですね。もちろんうちの工場でもやっています。」
「会心の製品なわけですね。メカニズムの点でも、機能的にも独自の作品だと自負しています。」

歩行は運動の第一

商売とソロバンが一致

「団地のタイニングキッチンで、奥さんが料理をつくる歩行を、私たちが製品を使う、使わないよ、現代に歩くことの意義を再認識してほしい。若い人がだんだん歩かなくなってきたと、いわれるし機械文明は、いやおうなくそうさせよう。若い人がだんだん歩かなくなってきたと、いわれるし機械文明は、いやおうなくそうさせよう。若い人がだんだん歩かなくなってきたと、いわれるし機械文明は、いやおうなくそうさせよう。」

「運動しないからにはサビつきます」機械にたとえて歩き礼賛をぶつ加藤さん

